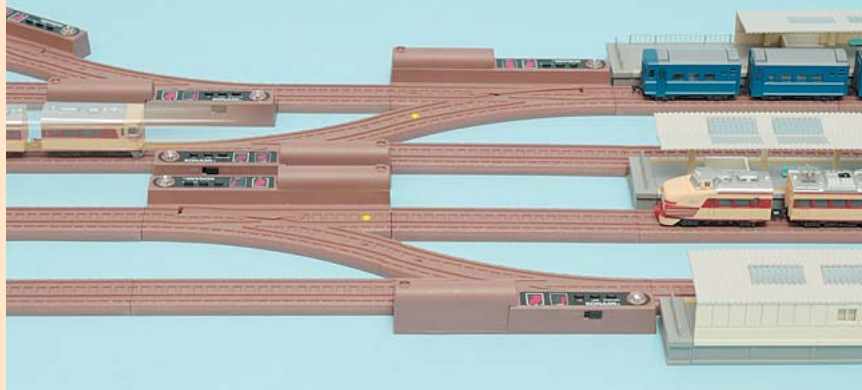


電動ポイントレール 大研究!



▲列車交換に追い抜き…。電動ポイントレールで複雑な運転も思いのまま。



◀電動ポイントレールの大きさは2種。分岐側の曲線半径が176mm、角度が45度のもの(R176-45°)と、曲線半径が264mm、角度が30度のもの(R264-30°) 価格は各1,980円。5月29日発売。

並み居る鉄道おもちゃはもちろん、鉄道模型をも凌駕する高機能を誇るコナミMICROiRデジQトレイン。待望の電動ポイントレールの登場で、名実ともに新時代の鉄道トイとして地歩を固めたと言われているのだ。これまで興味を抱きながらも様子を窺っていた皆さんも、自信を持って入門できるというわけ。いやメダタイムメダイ。

というわけで、今回から毎月ペースでデジQトレインの魅力を目一杯掘り下げてお届けしていきます。具体的な遊び方もどんどん紹介していく予定。まずは話題の電動ポイントレールの上手な使い方について迫ってみよう。電動ポイントのポイントだ!

これまで何度も強調してきたデジQトレインの最大の特徴は、高機能であらながら面倒な配線が不要であること。電動ポイントレールももちろんワイアレスでコントロールが可能だ。各ポイントは電池(単4×2)を独立した電源として使うので、本当日線は一切いらない。

ポイントの切り換えはコントローラーから発する赤外線信号によって行なう。コントローラーのLINE/POINTスイッチをPOINTの方に倒すと、上部の8つのLINEボタンがポイント切り換えに使えるようになる。ポイントの場合も車輪と同様、中央のID-SELECTスイッチで1~4のIDを選択でき、1つのIDに対して8つのラインがあるので、合計32基のポイントを独自にコントロールできることになる。実用上十分すぎるぐらいの数と言えるだろう。

個々のポイントのID/ライン番号は自由に設定できる。これが実は非常に便利なのだ。レイアウトが大きく複雑になるほど、どのLINEボタンがどのポイントに対応するのかを頭にいれておくのは大変になる。咄嗟にどのボタンを押せばいいのかかわからず列車が立ち往生ということにもなかねない。特に毎回線路配置が変わるフロア運転ではなおさらだ。だからこのシステムなら、もっともわかりやすい配列に設定することが簡単にできるのだ。

たとえば本線上のポイントをID-11に、ある駅のポ

デジQトレインファン集合! ラオックス鉄道フェア

来る5月23日(金)~25日(土)に秋葉原ラオックス・ホビー館&アソビットシティで「ラオックス鉄道フェア」が大々的に開催される。会場にはデジQトレインの全ラインナップはもちろん、今後発売される車輪たちも集結するというから見逃せない。デジQトレインの魅力を体感できるチャンスだ!

イントをID-2、別の駅のポイントをID-3、ヤードのポイントをID-4…という具合にまとめて設定させておく。ヤードを例にとれば、コントローラー上の切り換え表示灯が左から1つ点灯していれば1番線が開通、2つ点灯していれば2番線が開通…となるように設定しておけば一目瞭然だ。このあたりはいくらでもカスタマイズできるので、もっとも使い易い配列を研究しよう。

なおLINEボタンの上の表示灯は1回押しと点灯、もう1度押しと消灯…の繰り返しで点滅するが、ポイントの直線側・分岐側のどちらで点灯するかは自由に設定できる。実物の鉄道と同様にポイントの定立・反位を決め、定立側で表示灯が消灯するようにしておくのも面白い。必要に応じて反位側に切り換え、列車の通過と共に定立に戻す…という運転法はリアルだし、安全上も理にかなう。なお、実物のポイントでは通常、直線側が定立(と言うより定立すべき側が直線になるように敷設する)だが、デジQトレインのレイアウトでは使用頻度の高い方を定立とするといい。

なお、渡り線などで2つ(あるいはそれ以上)のポイントと同時に切り換えたい場合も至極簡単。複数のポイントのID/ラインを同じに設定すればいい。

さて、ある程度以上に大きなレイアウトで運転を楽しむ場合、コントローラーを2台用意して片方を車輪の運転専用、片方をポイント切り換え専用とすることをおすすめしたい。操作が煩雑になることを防ぐ意



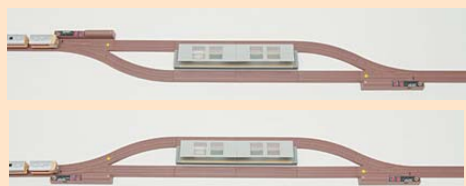
◀コントローラーのLINE/POINT選択スイッチをPOINT側に倒すと、上部のボタンがポイント切り換えスイッチとして機能するようになる。表示灯の点灯・消灯をポイントの定立・反位に対応させると便利だ。



▲ある程度大きなレイアウトでは、車輪とポイントそれぞれのコントローラーを別に用意したい。操作が煩雑にならずに済む上、複数のオペレーターによる「鉄道らしい」リアルな運転など、さらに発展的な遊び方にチャレンジするのもも好都合だ。

味もあるが、運転士と駅係員の役割を分け、実物の鉄道を凝縮したロールプレイングゲームとして楽しむなど、さらなる発展を考える上でも得策なのだ。

高機能でシンプル、そして高い自由度を持つシステムを使って、いくらでも面白く遊べるデジQトレイン。来月もディーブにその楽しさを掘り下げるので乞ご期待。



▲このような典型的な駅のパターンでは2ヶ所のポイントを同時コントロールするのが実用的。普通の交換駅では上のように互い違いに、待避・追い抜きをする場合は下のように両方のポイントが同じ側へ開通するように設定するといい。このようにさまざまな設定ができるのもデジQトレインの電動ポイントレールの優れた点だ。開通方向がLED表示によって一目でわかるのも嬉しい。



◀駅の片隅にはこんな「安全側線」を作るのも楽しい。2つのポイントを同時コントロールすれば実物同様に機能する。ちょっとゼイタクではあるが…。

See You AGAIN!

電動ポイントレールが発売される5月29日、第4弾車輪4種も同時に登場。その後も続々リリース予定だ。欄外のHPアドレスをこまめにチェックしてほしい。



▲第4弾車輪の顔ぶれ。手前から新幹線300系、205系京葉線、キハ82系、485系ボンネット。価格は各2,980円。